

提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

案 件 名：あきる野市観光推進プラン「あきる野ふるさとプラン行動計画」（案）

募 集 期 間：平成28年5月15日（日）～平成28年5月31日（火）

意見等提出件数：13件（提出者5人）

あきる野市観光推進プラン「あきる野ふるさとプラン行動計画」（案）に対する意見募集にご意見ありがとうございました。

以下のとおり、ご意見の概要と市の考え方について、ご紹介させていただきます。

項 目	意見の概要	市の考え方
1 市内の観光に係る団体 による組織の設置 (P21)	新たな組織の設置について、人員の確保は重要であり、市外の企業などからも人員を確保するなどして観光推進を行っていくべきではないか。	ご意見のとおり、観光推進においては、人材の確保が重要であると認識しています。市内の観光関係団体や企業に限らず、交通事業者等の広域的な視野を持った事業者の参画も想定しています。
2 情報発信の充実（情報誌、SNSの活用など） について (P22)	SNS ^{*1} を利用して観光客に発信してもらう仕組みを作ってはどうか。豊かな自然などを被写体とし、Instagram（インスタグラム）などを活用して、写真好きの観光客を呼び込む方法を検討してはどうか。	写真愛好家の方に向けてデジタルフォトコンテストを開催しています。SNSについては、現在 facebook（フェイスブック）ページ、LINE（ライン）を活用し、相互方向の情報発信をしています。Instagram（インスタグラム）の新規導入につきましては、SNS全体の動向を見ながら検討していきます。
3 秋川溪谷観光に必要な 観光インフラ整備の検 討について (P24)	各コースに歩道、トイレ、軽食のとれる休憩所などを設置してはどうか。	各コースの利用状況や市場調査等を踏まえ、P24(3)②「秋川溪谷観光に必要な観光インフラ整備の検討」の施策の中で検討していきます。
4 秋川溪谷ツーリズムの 発掘と展開について (P25)	二宮考古館や五日市郷土館などの既存施設を散策コースに組み込んだり、既存の旅館や食堂等を活用し、食事や休憩、娯楽スペースとして利用するなどして、観光客の滞在時間を延ばしていく取組が必要である。	P25(4) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川溪谷ツーリズム」の施策の中で検討していきます。

5	秋川溪谷ツーリズムの 発掘と展開について (P 2 5)	インバウンド* ² 対応として、市内の学校と協力し、祭りや伝統芸能などの地域資源を活用した交流会を設けたり、気軽に休憩や宿泊ができる施設の提供や開発を行ってはどうか。	ご意見のとおり、外国人旅行者が安心して楽しめるプランや受入れ環境を整備していく必要があると認識しています。P25 (4) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川溪谷ツーリズム」の施策の中で検討していきます。
6	秋川溪谷ツーリズムの 発掘と展開について (P 2 5)	市民農園等を活用した農作業体験ツアーや、散策とスポーツ施設を組み合わせた健康づくりのイベントなどを実施してはどうか。	P25 (5) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川溪谷ツーリズム」の施策の中で、関係部署と連携しながら、豊かな自然と首都圏からの立地を生かした滞在型体験観光を推進していきます。
7	秋川溪谷ツーリズムの 発掘と展開について (P 2 5)	2 3区内の小・中学校との連携による日帰り自然体験ツアーの企画や、周辺自治体との協働によるイベントなど、他団体との連携による施策やイベントを検討してはどうか。	関係部署と連携し、旅行者の多様なニーズに対応できるよう、P25 (5) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川溪谷ツーリズム」の施策の中で検討していきます。
8	秋川溪谷ツーリズムの 発掘と展開について (P 2 5)	あきる野市の自然環境や地形を生かし、サイクリングコースを設定してはどうか。また、ホテルやとんぼが集う池などを整備し、観光資源としてはどうか。	市民団体等と協力しながら、P25 (4) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川溪谷ツーリズム」の施策の中で検討していきます。
9	特産品・グルメ・土産の 開発に向けた検討について (P 2 5)	農産物や木工製品などの特産品・土産物開発を行うほか、販売所の拡充や観光キャラバンでの販売などを行ってはどうか。	市民団体や業者と協力し、地域資源を活用しながら、P25 (4) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「特産品・グルメ・土産の開発に向けた検討」の施策の中で戦略的に取り組んでいきます。
10	観光ボランティアガイドの 充実・活用について (P 2 5)	観光推進には、自然環境維持や設備の整備などとともに、訪れた方が良い印象を持ちリピーターとなることが重要である。そのためには、観光ボランティアガイドの養成に力を入れ、ふれあいの質の向上を図るべ	P25 (4) 秋川溪谷ツーリズムの発掘と展開の「観光ボランティアガイドの充実・拡充」の施策の中で検討していきます。

		きである。観光ボランティアガイドに向けた、ガイド検定やガイドの参考本などを作成するなど、市職員のリーダーシップによる意識の上げが重要である。また、市民ボランティアの高齢化が見受けられるため、地元の小・中学校、高校へ協働を働きかけてはどうか。	
11	観光の現状について (その他)	観光推進プランを推進してきた上での事業者の反響はいかがか。観光入込客数は目標を立てているが現状の推移は？	観光推進プランに基づく事業は、事業者にもご理解いただき協働により進めているところです。市の観光入込客数は、平成32年までに250万人を目標としています。現状の推移として、「西多摩地域入込観光客数調査報告書」（西多摩地域広域行政圏協議会）では、平成19年3月が142.60万人であったのに対し、平成25年3月が204.50万人となっており、61.90万人増加しています。
12	観光ルートについて (その他)	現在ある散策コースに加え、秋川沿い遊歩道を活用したコースを新しく作成してはどうか。	P25(4)秋川渓谷ツーリズムの発掘と展開の「秋川渓谷ツーリズム」の施策の中で検討していきます。
13	観光ルートについて (その他)	あきる野百景を基に、散策パンフレットの充実を図ってはどうか。また、日帰り旅行者のためのモデルプランを作成してはどうか。	現在、多様性を持った散策コースの設定をしています。今後は、必要に応じたコース設定を検討していきます。

※1 SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのことをいいます。

※2 インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のことです。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行又は訪日旅行と呼びます。